

銀座街づくり会議

104-0061 東京都中央区銀座4丁目6-1 銀座三和ビル3F

HONE: 03-3567-1535 ● FAX: 03-3563-0236 ● <http://www.ginza-machidukuri.jp>

- このNEWS LETTERは、全銀座会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています●
- 本誌の内容を、許可なく無断で複写・複製および転用・転載することを禁じます●

今年も「オータム・ギンザ2011」の一環として10月31日、紙パルプ会館にて、銀座アートエクステンションスクールと銀座街づくり会議の主催による「銀座デザインフォーラム シンポジウム」を開催しました。参加者は170名。定員を超えてお申し込みをいただき、会場は熱気につつまれていました。

基調講演をお願いしたのは、国内外で活躍する建築家・隈研吾さん（東京大学教授）です。隈さんは、建替え中の歌舞伎座の設計に携わっていらっしゃいます。細かい色や素材を決めるためにしょっちゅう現場に足を運んでいるという隈さん。2013年春、どんな歌舞伎座が姿を現わし、新しい歌舞伎座は、銀座にとってどんな意味をもつのでしょうか。

オータム銀座2011 銀座街づくり会議シンポジウム



「新しい銀座のファンタジア ～歌舞伎座の役割～」



都市の祝祭空間

隈研吾さんの基調講演のタイトルは「都市の祝祭空間」。

19世紀の都市は祝祭性に満ちていました。19世紀はパリやロンドンなど「首都の世紀」であり、そこに祝祭空間が次々と作られました。20世紀になると都市は工業化社会にふさわしいオフィスビルがその主役となります。21世紀の現在、世界中がポスト工業化社会の都市を模索していますが、再び祝祭空間を再整備していった都市だけが生き残れるのではないのでしょうか。

隈さんはこのような都市の歴史と、4度にわたって建て替えられてきた歌舞伎座の歴史を重ね合わせ、第5期となる新しい歌舞伎座のコンセプトと外観、内装について詳しく説明しました。

再び都市の歴史を振り返ると、1990年代くらいから、工業化社会のなかの建築は祝祭性を帯びてきていることがわかってきます。20世紀の都市はインフラが便利なところに人が集まりました。しかし、祝祭都市には「出し物」で人が集まります。ソフトを競う時代になるのです。これからは熾烈な地域間競争の時代です。ヨーロッパでも劇場や美術館等の文化施設によって、都市が人を呼ぶための努力をしています。そういう中で歌舞伎座には、歌舞伎という素晴らしいソフトがあり、人気ある役者がそろっています。こういうソフトは世界に類がありません。隈さんは、それを最大に銀座という場で生かしていくことの期待を述べてお話を締めくくりました。

新しい歌舞伎座の役割

続いて隈研吾さんと、銀座街づくり会議アドバイザーである蓑原敬さん（都市プランナー）、コーディネーター役の山本豊津さんによるパネルディスカッションが行われました。

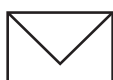
蓑原敬さんは、日本の都市計画や建築に携わっている人の中には1950年代の近代主義が横行し、法律はその時代で考え方が固まっており、祝祭空間をつくりにくい構造になっている現状を述べた上で、銀座街づくり会議に関わってきた経緯のなかから、銀座では「銀座ルール」など商業のにぎわいや文化による街づくりを見据えたルールをつくっていること、大規模開発などにあたって、成熟都市として文化を組み込んだ都市デザインの方向性を銀座街づくり会議を通じてはっきりと表明していることを話しました。そして他地域では感じられない銀座の気持良さの源泉は、銀座の人たちが街・仲間そして自分の仕事への自信があることではないかと述べて、銀座の場所の力への期待を話しました。

そして前近代・近代・ポストモダンの都市のありかたを、江戸から続く歌舞伎文化と重ねた熱い議論が繰り広げられました。



シンポジウムの資料について・・・

- ・DVD 貸し出ししています。
- ・議事録 ご希望の方には、実費でお分けしています。ぜひ町会や各店舗での勉強会などにお役立てください。



このNEWS LETTERは、メール配信もしております。メール配信をご希望の方は、下記までお知らせください。

» info@ginza-machidukuri.jp